

< 木曾川水系連絡導水路事業 >

添 付 参 考 図 書

- 1 . 事 業 費 内 訳 書
- 2 . 事 業 費 負 担 割 合

図 - 1 木 曾 川 水 系 流 域 一 覧 図

図 - 2 木 曾 川 水 系 連 絡 導 水 路 事 業 計 画 概 要 図

図 - 3 木 曾 川 水 系 連 絡 導 水 路 標 準 断 面 図 (上 流 施 設)

1. 事業費内訳書（平成18年度価格）

（単位：千円）

項	細目	工種	事業費
建設費			80,752,000
	工事費		72,647,000
		導水路費	65,865,000
		管理設備費	1,975,000
		仮設備費	4,807,000
	測量及試験費		5,811,000
	用地費及補償費		764,000
		補償費	764,000
		補償工事費	0
	船舶及機械器具費		630,000
営繕費		900,000	
事務費等		8,248,000	
事業費		89,000,000	

2. 事業費負担割合

（1）アロケーションの考え方

木曽川水系連絡導水路により、木曽川水系の異常渇水時において、徳山ダムに確保される流水の正常な機能の維持（異常渇水時の緊急水の補給）を図るための容量のうち40,000,000立方メートルの水を一部は長良川を經由して木曽川に導水し、木曽成戸地点において河川環境の改善のための流量を確保するとともに、徳山ダムに確保される愛知県及び名古屋市の水道用水と名古屋市の工業用水を導水し、木曽川において取水を可能ならしめることを目的とする。

アロケーションは分離費用身替り妥当支出法に基づき、上流施設と下流施設のそれぞれについて河川、都市用水により一次アロケーションを行い、次いで利水者間で二次アロケーションを行うこととした。

（イ）一次アロケーションは河川、都市用水の二者において身替り建設費により「分離費用身替り妥当支出法」によって行う。

（ロ）二次アロケーションは利水者間において通水量に導水延長を乗じたものの比により行う。

（ハ）身替り建設費は平成18年単価を用いる。

(2) 上流施設

1) 身替り建設費

(イ) 河川

通水量 最大16.0m³/s

建設費 85,000百万円

(口) 都市用水

通水量 最大4.0m³/s

建設費 58,000百万円

2) 分離費用

(イ) 河川

他目的通水量 最大4.0m³/s

他目的建設費 58,000百万円

分離費用 88,000百万円 - 58,000百万円 = 30,000百万円

(口) 都市用水

他目的通水量 最大16.0m³/s

他目的建設費 85,000百万円

分離費用 88,000百万円 - 85,000百万円 = 3,000百万円

(3) 下流施設

1) 身替り建設費

(イ) 河川

通水量 最大4.0m³/s

建設費 900百万円

(口) 都市用水

通水量 最大0.7m³/s

建設費 250百万円

2) 分離費用

(イ) 河川

他目的通水量 最大0.7m³/s

他目的建設費 250百万円

分離費用 1,000百万円 - 250百万円 = 750百万円

(口) 都市用水

他目的通水量 最大4.0m³/s

他目的建設費 900百万円

分離費用 1,000百万円 - 900百万円 = 100百万円

(4) 事業費負担割振

(単位 : 百万円)

区 分		河 川	利 水	計
a	上流施設身替り建設費	85,000	58,000	
b	妥当投資額	85,000	58,000	
c	a,bいずれか小	85,000	58,000	
d	専用施設費	0	0	
e	c - d	85,000	58,000	
f	分離費用	30,000	3,000	33,000
g	残余便益 (e - f)	55,000	55,000	110,000
h	同上率 (%)	50.0	50.0	100.0
i	残余共同費配分	27,500	27,500	55,000
j	負担額 (f + i)	57,500	30,500	88,000
k	同上率 (%)	65.3	34.7	100.0
l	下流施設身替り建設費	900	250	
m	妥当投資額	900	250	
n	l , mいずれか小	900	250	
o	専用施設費	0	0	
p	n - o	900	250	
q	分離費用	750	100	850
r	残余便益 (p - q)	150	150	300
s	同上率 (%)	50.0	50.0	100.0
t	残余共同費配分	75	75	150
u	負担額 (q + t)	825	175	1,000
v	同上率 (%)	82.5	17.5	100.0
w	負担額 (j + u)	58,325	30,675	89,000
x	同上率 (%)	65.5	34.5	100.0

(5) 都市用水費用負担割振

都市用水費用割振は、通水量に導水延長を乗じたものの比によって按分し算定することとした。

区 分	事業費 (億円)	河 川	都市用水	愛知県 水道用水	名古屋市 水道用水	名古屋市 工業用水	合 計
上流施設	880	65.3%	34.7%	61.0%	26.5%	12.5%	100%
(a)通水量(m ³ /s)				2.3	1.0	0.7	4.0
(b)導水延長(km)				42.8	42.8	28.9	
(a) × (b)				98.44	42.80	20.23	161.47
下流施設	10	82.5%	17.5%			100%	100%
全体負担割合	890	65.5%	34.5%	20.9%	9.1%	4.5%	100%

図-1 木曾川水系流域一覧図

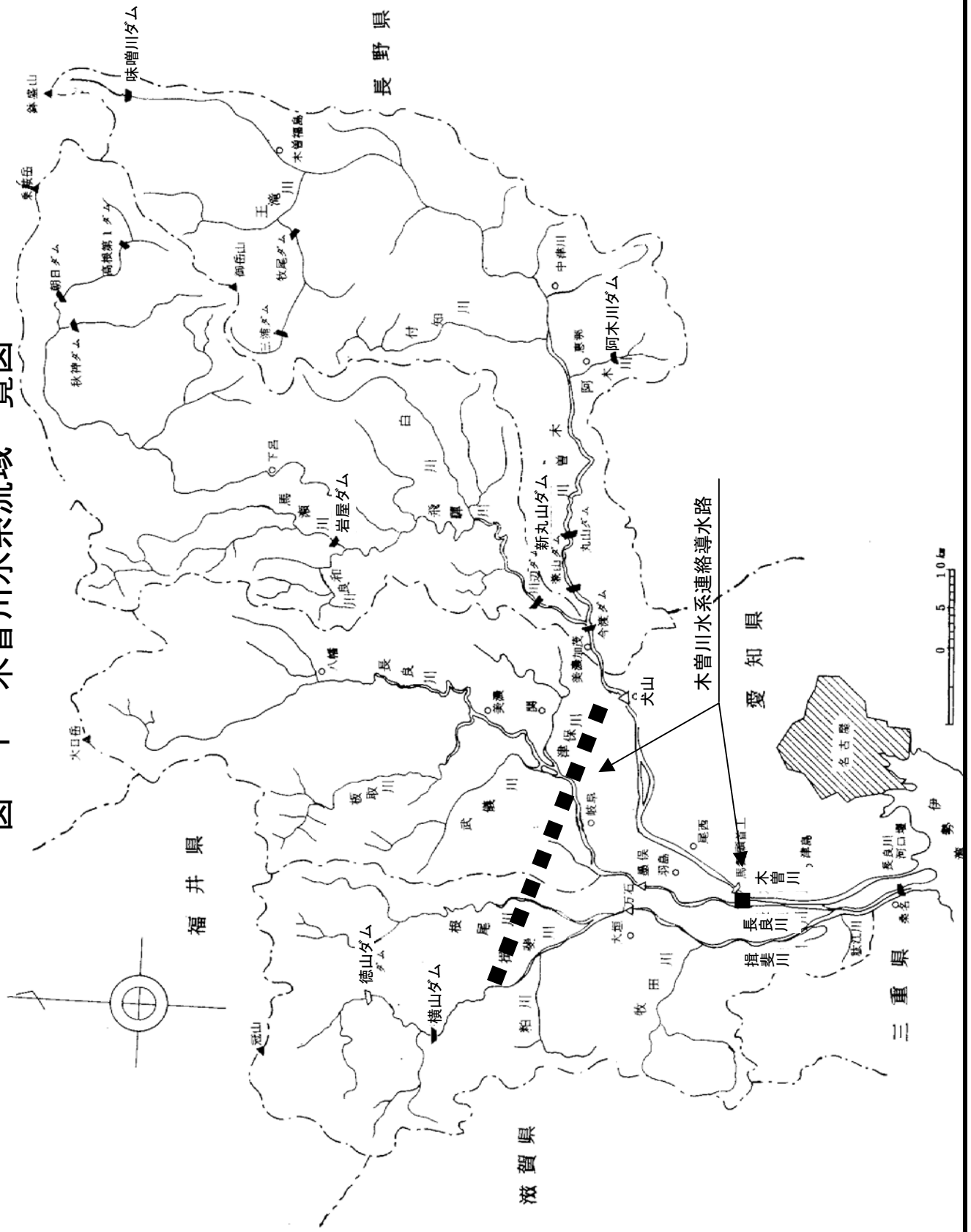


図-2 木曾川水系連絡導水路事業計画概要図

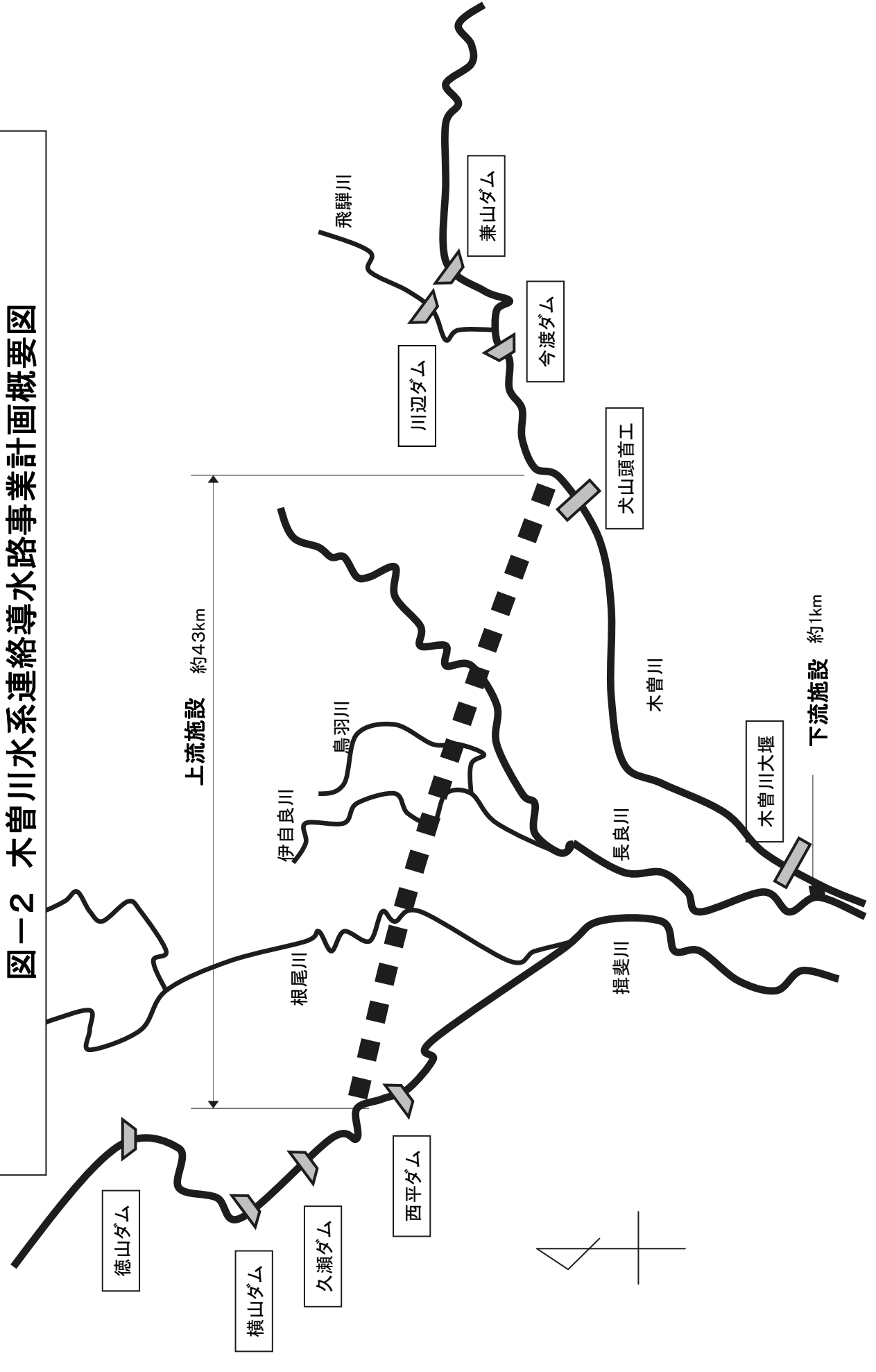
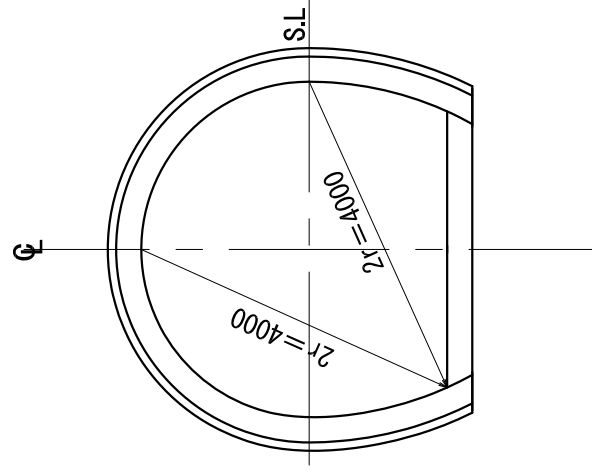


図-3 木曾川水系連絡水路標準断面図(上流施設)

トンネル区間

(設計流量:20m³/sの標準断面)



トンネル区間

(設計流量:15.3m³/sの標準断面)

